

まんのう町教育委員会だより

爽 そうふう 風

子どもの健やかな成長を願って

平成29年〔2017〕

8月1日発行

！ Vol.2
Contents



P.2-3 地域で子どもを育てる
一通学合宿の取り組みー

P.4-5 園・学校ウォッチング
満濃南小学校・満濃南こども園

P.6-7 教育のゆくえ

P.8 まんのう町の
おいしい給食のひみつ

P.9 シリーズ 子育てを考える

P.10 フォトギャラリー

P.11 関係機関からのお知らせ

ものさしでは どうも無理みたい
満濃南小学校3年算数「球の直径を求めよう」の授業より
(4ページに関連記事)

特集 地域で 子どもを育てる

通学合宿の取り組み

仲南・四条（5/7～5/13）
琴南・長炭（5/28～5/31）

通学合宿とは

子どもたちが普段通り学校に通学しながら、親元を離れて地域の公民館などで宿泊まりし、異年齢集団で共同生活を行う取り組みです。

まんのう町では、毎年小学校区ごとに実施されていますが、今年度もすでに4つの校区で終了しました。

通学合宿の意義

仲南公民館長 三好 茂

仲南地区の通学合宿は、今年で17回目、6泊7日の日程で実施しました。今回は、テーマとして「ひとりではみんなのために、みんなはひとりのために——あたりまえのこと——が、あたりまえにできる——」を掲げました。

昨今、テレビゲーム、パソコン、スマートフォン等の普及により、子どもたちの心身の発達には著しく変化し、忍耐力や集中力、持続性が衰退しているのではないかと危惧されています。そんな中、子どもたちを7日間、あえて家族や便利なもの（こと）から遠ざけ、異年齢集団を中心とした多様な体験活動を行います。保護者にとっては家庭生活を見つめ直すよい機会となり、地域においては「地域全体で子育て」をしようとする気運づくりにもなると考えています。

今年度は、4年生から6年生までの男女19名が参加し、元気に生活しました。期間中、地域の家庭で「もらい湯」を体験し、感謝の心を養います。野外での飯ごう炊さんは食育につながったり、母親の苦勞を感じる機会になったりします。発表会では、班毎に考えた劇や歌などをステージ上で披露するという、言うなれば度胸だめしも行いました。まんのう天文台では惑星を観察し、星座の話の聞きながら、また、プロから手ほどきを受けながら愛情をこめて作ったうどんのおいしさを感じました。

最終日には、ひまわり油を使って世界につかないキャンドルを作りました。各自が工夫を凝らし、予想以上に素晴らしい記念の作品が出来上がりました。長くも短くも感じる一週間ではありましたが、この合宿の全てが子どもたちにとって、今しかできない貴重な経験となったことでしょう。

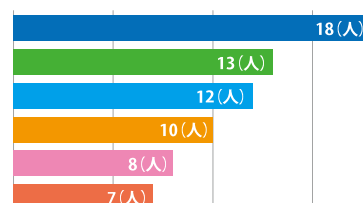
最後に、スタッフに行ったアンケート調査の結果から、成果と思われる点について紹介します。

通学合宿スタッフに聞きました！

◆ なぜ通学合宿に参加しようと思いましたか

（複数回答・上位6つ）

- 子どもたちの力になりたい
- 地域のために力になりたい
- 以前手伝ったことがある
- 以前わが子が世話になった
- 知人に誘われた
- 子どもたちと触れ合いたい



◆ 通学合宿を実施して、どう変わったと感じていますか

《地域の子どもに対する意識や関心》



《ボランティア活動に対する意識や関心》



飯ごう炊さん（仲南）



うらしま太郎体験（琴南）



和太鼓SAKURAとともに（四条）



キャンプファイヤー（長炭）

授業中、子どもたちは分からないことがあっても、自分から訊く（尋ねる）ことがなかなかできないようです。その結果、黙ってしまつて、分かたふりをする、下を向いてしまつていくことになりがちです。

それを打破しようとして本校では「学び合い」一人の話を聴く、分からないことは訊く、訊かれたら相手が分かるまで説明するーを取り入れています。

その結果、ペアやグループでの学習において、自分が思っていることや困っていることを積極的に話せる子どもや、教師の指示がなくても隣や周りの子どもとともに学ぼうとする子どもが増えています。

先日の六年算数、円の面積を求める学習でのごとくです。円の面積を求める公式を学習した後、こんな課題が出されました。

『黒く塗られた所の面積を求めよう』

これは少し難しい発展的な課題です。一人ではなかなか解けません。子どもたちは知恵を出し合い、いろいろ考



えてこの課題に挑戦しました。けれどなかなか解決の糸口がつかめません。そこで、教師は子どもたちが困っていることを全体に投げかけ、学びが進んでいるグループに説明させたり、既習の内容とつながりだした後、もう一度グループに戻して考えさせました。



する、と「分かったー」という声が。分かった子はここに顔です。その子が全体に説明し、さらにグループでも説明し合つて…。最後にはみんなが納得し、「そうなんやー」と笑顔が見られました。



「自立への教育」それが本校の教育目標です。自立するためには、たくましく生きていく力が必要ですが、その一つが学力です。そこで本校では、学び合いを核とし、子どもが疑問や課題を追究し表現する授業をめざしています。

授業を変える

～ 学び合いを核として、学ぶ意欲と分かった喜びのある授業へ～
満濃南小学校

教師の説明を聞くだけでは、きつてこんな顔は見られなかつたでしょう。分かったと思ひ、自分で考え、仲間と一緒に考え、分かたふりそのもので、学び合いによる学習を始めてから、授業中に下を向いていたり、じつといていたりする子どもはほとんど見られませんでした。分からなければ訊けばいい、訊かれたらちゃんと説明するー今日も教室ではこういう光景が広がっています。その積み重ねによって学ぶ意欲のある子どもに育っていくと考えています。

このような学び合いが成立するためには、子ども同士が分からないことを素直に訊くことができる関係を築くことが必要です。そのために、本校では「きずなの時間」などをとおして、お互いの考えを聞きあつたり多様な考え方に触れたりしながら、相手を受け入れ、互いに支え合える関係作りをしています。



（きずなの時間）
いに学び合えるようにと取り組んでいます。

梅雨に入ったのに、雨が降らない毎日…。

晴れた日が続くので、子どもたちは太陽の光を全身に浴びながら、土、水に触れて、元氣いっぱい戸外遊びを楽しんでいます。

子どもたちが大好きな生き物に遭遇する機会が多いこの季節。0・1・2歳児が生活するにこにこ様の園庭では、カエルや虫探しに夢中です。3・4・5歳児たちが生活するわくわく様の廊下は、さなぎ、カエル、何かの卵？おたまじやくしなどを入れた、たらい、バケツ、観察ケースなどでいっぱい。小さな生き物たちが成長する姿に興味津々です。

満濃南こども園では、子どもたちが自分から遊びや生活に取り組み、発達に必要な経験を積み重ねていくことで、豊かな心と自立への基礎を育むことを大切にしています。

毎日が発見！

満濃南こども園



に上がつてハイハイをしたり、バランスをとって歩いたり。一人ひとりの探索活動がより活発になってきています。運動会を終えて、一段と成長



ピーマン
びかびか



まんのういけをつくらう！

した3・4歳児たち。わくわく様ではシャボン玉、ドッジボール、くるくるスキップなどの遊びが続いています。給食後は、お掃除当番さんたちのお陰で、廊下はピカピカです。2棟の子どもたちが、友だちや先生とふれあう喜びを感じながら、楽しさいっぱい、笑顔いっぱい毎日を送るようになり、一人ひとりの育ちを職員全員で支えています。

子どもたちに授けたい力

～量ではなく質～

昨年、『ゆとりですが、なにか』というドラマが話題になりました。2002年度施行の学習指導要領による教育を受けた「ゆとり世代」と呼ばれる人たちのドラマです。ゆとり教育については、文部科学省が本来意図したものと違ったと見え方がされてしまった感もありますが、それはさておき、今回の新学習指導要領では、これまで議論されてきた「ゆとりか、詰め込みか」という量の問題から、「子どもたちがどのように学び、その結果として何ができるようになったか」という学習の質を問うことにシフトしています。

「知識・技能」だけでなく、それを活用するための「思考力・判断力・表現力」、さらには「学びを人生や社会に生かそうとする力や人間性」の育成を重視しているのです。

そのためには、学校外の生活や活動とのつながりを大事にし、世の中と結びつけた授業等を展開していけるよう、「社会に開かれた教育課程」を編成・実施することが重要となります。



— 新学習指導要領がめざす、 これからの教育とは? —

AI（人工知能）の台頭、スマホ・タブレットといった携帯機器の普及など、今世の中は加速度的に変化しています。このような社会をたくましく生き抜いていかなければならない子どもたちには、「**学んだことをきちんと使いこなせる**」ことがとても大切です。

今回の学習指導要領改訂の大きな焦点の一つに、「AIとどう向き合うか」があります。今後ますます進化していくであろうAI。それに使われるのではなく、それを使いこなしたり創りだしたりといった、「人間にしかできない力」を育てていかなければなりません。将棋にたとえると、「駒ではなく指し手を育てる教育」と言えましょう。

このような考えのもと、2021年度入試から大学入試も大きく変わります。現在（2017年度）の中学3年生が現役で大学を受験するときには、主に「**思考力・判断力・表現力**」や「**主体性・多様性・協働性**」が試されるのです。（※詳しく知りたい方は、「高大接続システム改革会議」と検索してみてください。）

「学習指導要領」とは

全国どの学校で教育を受けても一定の教育水準が確保できるよう、文部科学省が各教科等の目標や内容などを学年ごとに定めているもので、教科書や学校での指導内容のもとになります。ほぼ10年毎に改訂されています。

今回改訂された新しい学習指導要領は、小学校が平成32年度（2020年度）、中学校は平成33年度（2021年度）から全面实施されます。

対話をしながら学びを深める



この資料から分かることは？

これからの学校

～チーム学校～

「チーム学校」とは、学校内の教職員が団結することにとどまらず、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の専門スタッフや地域の人たちもチームの一員として情報を共有し、みんなで連携・分担して組織的に学校を運営していくことをいいます。

以前、学校のしきいが高く、外の人は入りにくい「閉鎖的な学校」の時代がありました。現在は「地域に開かれた学校」づくりを推進しています。

これからはさらに一歩踏み出し、**学校と地域が一体となって子どもたちを育てる「地域とともにある学校」づくり**が求められています。地域の人たちが、ゲストティーチャー、学習支援者、学校ボランティアなどとしてどんどん教育活動に参加し、教員も教員以外の者も、それぞれがその専門性を発揮していくことで、学校組織全体の総合力が高まっていくのです。

これからの授業

～主体的・対話的で深い学び～

これからの授業は、**子どもたちが受け身でなく主体的に学ぶこと、仲間と対話をしながら学びを深めていくことが求められています**。学びが深まると、学んだことが自分のものとなり、使える力となります。

知識をいっぱい詰め込むのではなく、学んだ知識を使って新たな課題を解決したり、これまでなかった知識を新しく創造したりしながら学び続けることができる力を育てていこうとしているのです。

地域の人たちと一緒に



緑米の田植え

地域で学ぶ



大川山を歩いて登り、キャンプ場へ

体験を重視



みてみて。いものつるさしをしたら、こんなに泥がついちゃった

使える力を身につける



ずれないように、めもりをきちんとあわせて・・・

ひびいて、山形のぶどうが甘くなるのか。その原因をつきとめたようです。それは温度差だったのです。

勉強に行った山梨の甲府盆地の人たちは、びっくりしたようです。こちら（山形）のぶどう園には草は生えていない、ぶどうの木の手入れも充分でない。手入れが行き届いているようには見えなかったからです。



子育ても考える



お茶の水女子大学におられた外山滋比古さんが、「親は子に何を教えるべきか」という本を出版されておられます。そのなかで「ぶどうの教訓」ということをテーマにして、大変丁寧に奮闘を書かれておられますので、それをかいつまんでご紹介してみたいと思います。

山形盆地は内陸性気候です。夏の昼はカーッと照りつけ、日本最高気温を記録したほど暑い。朝夕は涼しくなります。ぶどうもおぼろげにやうね。暑いと思ったら、急に温度が下がる。これはいけないと緊張する。そのときに、身を護るにつけて糖を出すのです、と。

さらに外山滋比古さんは続けて、人間にも味がある。おもしろい人間もあれば、さっぱりおもしろくない人もある。とこなく人をひきつける魅力はどうしてできるのか、と考えるときに、この山形のぶどうの教訓が役に立つ。

人間は、陽の当るあたりにいても人間味は出てこない。陽が沈んで寒くなる逆境をへるために、少しずつ甘さをまます。苦しいことにじっと耐える。それを通じて、知らず知らずのうちに人間の幅が出るのは、温度が下がって甘味を濃くするぶどうと違いないはずはない。それかといって、冷たい逆境の連続がよいわけではない。北極や南極でぶどうを育てることは考えられもない。子育ての要諦を教えているように思うが・・・。

（教育長 三原一夫）

まんのう町の おいしい給食の ひみつ

おいしいと評判の、まんのう町の給食。子どもたちは、毎日の給食をととても楽しみにしています。そのおいしさの秘密に迫りました。



その1 地産地消



地域で生産された食材を、地域で消費することを地産地消と言います。地産地消には、さまざまなよさがあります。

- ◆とれたてで新鮮。
- ◆生産地が近いので運搬の燃料が減り環境にやさしい。
- ◆地元の食材を知ることで食育に役立つ。
- ◆作っている人の顔が分かり、安心安全。

冬の時期を除いてほとんど毎月献立に登場するアスパラガスは、神余義久さんと奈良耕治さんによってつくられています。

給食で使われている地場産物と生産者の方たち



その2 自校方式

「自校方式」とは、学校の敷地内に調理場があり、学校の職員として調理員さんがいて給食を作ってくれるシステムです。自校方式には、次のようなよさがあります。

- ◆できたてなので、温かいものは温かく、冷たいものは冷たく食べられる。
- ◆調理してくれる人の顔が見え、感謝の心が育つ。
- ◆食物アレルギーに細やかに対応できる。
- ◆学校行事などに合わせて、時間の融通が利く。



安心・安全な給食のために

- ←暑い夏でも、この服装で調理をします。
- ☆朝届いた食材は、品質、鮮度、包装を丁寧にチェックします。
- ☆調理作業工程表や調理員の動線図を作成し、それらに基づいて安全に効率よく調理をします。
- ☆食品の中心部まできちんと加熱できているか、中心温度計で計って記録しています。

まんのう町 民具展示室で 昭和に タイムスリップ



お手玉・けん玉など昔の遊び

体験コーナー

砂場の田んぼで田植え



すべて、町内の方からの寄贈です

- 昭和20年～30年代にまんのう町で使われていた道具約1,300点を展示しています。
- ボランティアの方から、当時の体験談を聞くこともできます。



関係機関からのお知らせ

まんのう町スクールソーシャルワーカー (SSWer) から

声をかける

私は学校で子どもたちと過ごすとき、「声をかける」ことを心がけています。声をかけた時の反応は様々です。元氣よく返してくれる子、恥ずかしそうに返してくれる子、それがない子や無言の子もいます。けれども、どんな反応もその子のバロメーターだと思って、大切に受け止めるようにしています。あるとき一人の子が、こちらの声かけにしばらく沈黙した後、こう話してくれました。

「相手の反応がなかったら嫌だから、自分から挨拶するのとか、苦しい。」

なるほど、子どもは敏感、そう思うて、こちらからの積極的な声かけをより意識するようになりました。そのおかげで、子どもたちから声をかけてもらえることが増えました。そして私自身は、ちよちよとした機会を捉えて「ほめる」ことが、自然とできるものになってきました。

「声をかけて」反応を受け止めること「ほめる」ほんの少しの意識づけや心の余裕が、子どもたちのコミュニケーションを深めていくきっかけになると、日々感じていきます。



(スクールソーシャルワーカー 武川咲子)

まんのう町教育支援機構から

発達障害って??

「漢字がうまく書けない」「落ち着きがない」「危険なことをする」「相手の気持ちがいらない」など、発達障害傾向のある子が注目されるようになってきました。普通、だれでも多少は得手不得手があるものです。しかし、その程度の差が大きく、「がんばれ」「しっかりしろ」ではなかなかよくならず、学校園の生活に大きな困難を抱えた子どもたちがいることが分かってきました。

これらの子どもたちは、個々の特性を見極めその特性に応じたかかわりをするることにより、大きく改善することも分かってきています。

発達障害の傾向がある子は、ごく身近な子にも見られることが分かってきました。特別支援教育で有名な上野一彦先生は、特性の違いを七色の虹にたとえられます。そして、個々の特性を修正するのではなく、活かす支援が重要とも言われています。

早期支援教育コーディネーターは、個々の子どもの特性を活かすためのアドバイスができればと願っています。

(早期支援教育センター「たむ」所長 馬場広充)



(個々の子どもの特性の違いのイメージ図)

まんのう町国際交流協会から



台湾友好使節団が満濃中学校を訪問

台湾からの友好使節団が、6月20日に満濃中学校を訪問し、代表生徒との交流会を持ちました。

交流会では、台湾の学校の様子や流行について質問し、日本のアニメやJ・POPなどは有名で人気があることを教えてもらいました。

台湾の伝統的な遊びは初めて体験するもので、最初は難しかったけれど、次第にコツをつかむことができ、大いに盛り上がりました。

国が違えば考え方も異なる海外の学生と触れ合うことで外国を身近に感じ、将来自分が活躍する場をグローバルに考えていくことのできる人間が育成できれはと思います。

今後外国からの修学旅行や研修などの受け入れが広がり、まんのう町の若い世代が次世代のリーダーになっていくことを期待しています。

(国際交流協会事務局長 竹下陽子)



高篠小

行くぞ！
オー！！

琴南小

全校生で
茶摘み

長炭小

魂の長炭ソーラン

四条小

じゃんけん列車
ながくなが～く
なあれ

四条こども園

ちよちよが
とんだ！

高篠こども園

ハムスターの
おうち、気に入って
くれたかな？

琴南こども園

アユの
放流

仲南こども園

てんとうむし
みつけた

仲南小

子ども自転車
香川県大会
3位入賞

ピーマンの あかちゃん?



実り始めたピーマン。
はやく大きくなあれ!
満濃南こども園にて
(5ページに関連記事)

編集後記

「他の国の人たちに開かれた人間となるためには、むしろ自分という存在に深くかかわることが必要である。深くなることは、閉じることではなく、逆に開くことである」国際化の時代を考えると、に、いつも思い出す河合隼雄さん（元文化庁長官・臨床心理学者）の言葉です。

平成32年度から小学校5・6年生で「外国語活動」が「外国語」という教科になります。文部科学省は、英語の知識や技能が身につくことと併せて、日本語や日本の文化についての理解を深めることを求めています。つまり、英語が堪能になることに比例して、日本人や日本の文化のよさ、日本人のものの考え方などについての理解が深まることが求められているのです。将来、堪能な英語を駆使しながら、外国に向けて自国の考えをきちんと発信できる日本人を育てていかなければなりません。それを、河合隼雄さんは「自分という存在に深くかかわる」「深くなることは、開くこと」と表現しているのです。

今回の特集で取り上げた「通学合宿」は、地域の方々に見守られながらともに生活する中で、子どもたちが「まんのう町で生まれ育った自分」という存在の根を深くしていくことのできる意義深い取り組みであると思います。

特集

こども園は、いま
※スタートして2年目を迎えた町内のこども園。現在の様子を
お伝えします。

園・学校ウォッチング

- ・高篠小学校
- ・長炭こども園

シリーズ

子育てを
考える



次号(10月1日発行) 予告

平成29年【2017】8月1日発行

Vol.2

まんのう町教育委員会だより

爽風

発行責任者：まんのう町教育委員会

〒766-8503 香川県仲多度郡まんのう町吉野下430番地

TEL (0877) 73-0108 FAX (0877) 73-0113